

— 指導案集 (2月23日第5校時) —

- 2年・道徳の時間「だれか見たの？」
(情報発信者の責任と相手への配慮)
- 3年・国語「相手の気持ちを考えて 一話し言葉と書き言葉」
(情報発信者の責任と相手への配慮)
- 4年・総合的な学習の時間「インターネットで調べよう」
(情報の信頼性や信ぴょう性についての意識)
- 5年・総合的な学習の時間「著作権について考えよう」
(著作権などの尊重)
- 5年・社会「くらしを支える情報」
(情報の信頼性や信ぴょう性についての意識)
(情報発信者の責任と相手への配慮)
- 6年・家庭「めざそう 買い物名人」
(情報の信頼性や信ぴょう性についての意識)

情報発信者の責任と相手への配慮

— 2 年・道徳の時間 —

1. 主題・単元名： 「だれか見たの？」（信頼、友情）

2. 題材・教材について

本題材では、ある日クラスの友だちの上履きが見あたらなくなり、一人の子が自分の思い込みから「ぜったい〇〇くんよ！」とみんなに言ってしまう。友だちの思い込みから、だれかが疑われてしまうという状況自体をいけないとしてしまわず、身近に起こりうるものとしてみんなで考える材料にしたい。

不確かなまま友だちを疑った発言をした場面と、「見たわけじゃないのに」という言葉以降の場面を比べ、戸惑いや不安、迷い、お詫びの気持ちなどそれぞれの心の動きや友だちへの思いを考えられるようにする。無事に上履きが見つかる場面では、ああ良かったと共感するだろう。

友だちを大切にしていこうとする心情を育てるとともに、不確かな情報がもとで傷ついた友だちの思いに共感し、正しい情報を相手のことを考えて発信することの大切さについて考えさせたい。同時に、根拠のない情報の不確かさについて、情報の受け手として考える機会にもしたい。

3. 本時の目標

① 教科や領域に関する目標

- ・ 友だちの心の痛みに関心し、友だちを大切にしようとする心情を育てる。
- ・ 相手の気持ちを考えて話したり行動したりしようとする心情を育てる。

② 情報モラル教育に関する目標

- ・ 不確かなことを話し、周囲に間違った情報を広めてしまうことで、人を傷つけてしまうことがあることがわかる。
- ・ 責任をもって、確かな内容で話そうと心がける態度を身につける。

4. 展開

学 習 活 動	教師の指導・留意点（○留意点、◇評価）
<p>1 友だちと一緒によかったなと思うことを話し合う。</p> <p>C：楽しくなる。</p> <p>C：協力できて、うまくいく。</p> <p>C：一人の時よりうれしい気持ち大きい。</p>	<p>○学習や生活の中での身近な出来事をふりかえる。</p> <p>◇友だちに対して温かい気持ちを持つ。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>まさとくんが、「見たわけじゃないのに・・・」と言った気持ちをかんがえよう</p> </div>	
<p>2 「だれか見たの？」を読んで話し合う。</p> <p>T：よう子さんは、どんな気持ちで「ぜったいゆうじくんよ」と言ったのでしょうか。</p> <p>C：一人でくつ箱にいたからきっとそうだ。</p> <p>C：たぶんそうだと思う。</p> <p>C：前にけんかしたことがあったんじゃないか。</p> <p>T：まさとくんは、どんな気持ちで「見たわけじゃないのに・・・」と言ったのでしょうか。</p> <p>C：きっとゆうじくんじゃない。</p> <p>C：はっきりしないのに、だれかのせいにするのはよくない。</p> <p>C：かわいそう、助けてあげたい。</p> <p>T：「見たわけじゃないのに」というまさとくんの言葉を聞いて、よう子さんはどんなことを考えたのでしょうか。</p> <p>C：見てないけど、ぜったいゆうじくんだ。</p> <p>C：勝手に決めつけてしまったかな。</p> <p>C：友だちを疑ってしまったな。</p>	<p>○ワークシートの吹き出しに、それぞれの心情を記入させる。</p> <p>○ちょっとしたきっかけで友だちを疑う言葉をかけたことを押さえる。</p> <p>○不確かな話だったことを意識させる。</p> <p>◇まさとの気持ちを考え、共感している。</p> <p>○友だちと一緒にさがそうとするよう子の気持ちを黒板に掲示する。</p> <p>◇少しずつ変化するよう子の気持ちに気付く。</p>
<p>3 自分自身を振り返って話し合う。</p> <p>T：もしこんなことがあったら、友だちにどんな風に助けてもらったらうれしいですか。</p> <p>C：決めつけしないで、自分の話をきちんと聞いてほしい。</p> <p>C：味方になって、優しくしてほしい。</p>	<p>◇確かでない話で人を決めつけてしまってはいけないとわかる。</p> <p>◇相手の気持ちを考えて話したり行動したりしようとする心情をもつ。</p>
<p>4 教師の説話を聞く。</p>	

情報発信者の責任と相手への配慮

—3年・国語—

1. 単元名 「相手の気持ちを考えて ー話し言葉と書き言葉ー」

2. 題材について

第1時では、話し言葉に目を向け、話す時の非言語的側面について指導をする。日常生活の中で無意識に使っている非言語的側面を知り、自分の思いをよりの確に伝えられるように練習する。また、ここでは相手を意識して話すことの重要性を感じさせたい。そのために、場面設定をはっきりさせ目的意識、相手意識をもって話させるようにする。

第2, 3時では話し言葉と書き言葉を比較することによって、それぞれの言語的特徴をつかませることをねらっている。書き言葉のときには、非言語的側面を利用できないことを踏まえ、どのような点に気をつけて書くことが必要か考えさせる。

情報機器を利用した伝達手段として電子メール、掲示板、チャットなどがあるが、それらはすべて書き言葉である。書き言葉の特徴を捉え注意点を考えることが情報モラル教育につながると考えた。本単元では手紙を取り上げ、直接情報機器は使用しないが、書き言葉を使った伝達手段の例として話の中で触れるようにする。

3. 目標

(1) 単元の目標

- ・相手や目的を考えて話したり書いたりしようとする。(関心・意欲・態度)
- ・相手や目的を意識して話し方を考えることができる。(話すこと・聞くこと)
- ・相手や目的に応じた適切な表現を考え、手紙を書くことができる。(書くこと)
- ・話し言葉と書き言葉の違いや特徴を知り、相手のことを考えて適切な表現ができるようにする。

(情報モラル)

(2) 本時の目標

①教科や領域に関する目標

- ・相手や目的に応じた適切な表現を考えようとする。(関心・意欲・態度)

②情報モラル教育に関する目標

- ・話し言葉と書き言葉の違いや特徴を知り、相手の気持ちを考えて情報を発信しようとする。

4. 展開

学 習 活 動	教師の指導・支援（○留意点、◇評価）
<p>1. 学習課題の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちを考えて伝えるために話し言葉と書き言葉について考えよう。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>上手な断り方をしよう</p> </div> <p>（設定）久しぶりに会った友達に誕生日会の招待状を渡されました。本当は行きたいのですが、前から家の用事が入っていて断らなくてははいけません。</p> <p>2 断るときの「話し言葉（非言語的側面）」について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を生かして話し言葉で断り方を考える。 会って断る場面を想定し、実際にやってみる。 <p>3 断るときの「書き言葉」について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ごめんね」という言葉の印象の違いについて話し合う。 <ol style="list-style-type: none"> ①話し言葉・攻撃的に言う ②話し言葉・心から謝罪するように言う ③話し言葉・軽く言う ④書き言葉・活字で出す <p>4 「話し言葉」と「書き言葉」を比べ、その違いや特徴について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合ったことをもとにそれぞれの特徴を整理する。 特徴をもとにどんなことに気をつけて書けばよいか考える。 <p>5 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの言葉の特徴を理解して使うことの大切さを知る。 学習したことを生かして、次回実際に断りの手紙を書くことを知る。 	<p>○話す言葉自体に戸惑うことがないように、事前準備として、設定を知らせワークシートに言葉を書いておく。</p> <p>○前時の学習を想起させる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>心を伝える表し方（非言語的側面）</p> <ol style="list-style-type: none"> a 相手の近くに行く b 相手の目をきちんと見る c 相手に聞こえる声で言う d 笑顔で言う（表情をつける） e 場合により、手を取るなど行動で表す <p>～図書文化 『ソーシャルスキル教育で子どもが変わる』より～</p> </div> <p>○ワークシートを見ながらやってもよいことにする。</p> <p>◇意欲的にやってみようとしている。</p> <p>○①～③は、教師が意識して言う。</p> <p>○聞いた時、見た時の印象をシートに記入させ、話し合いの材料にさせる。</p> <p>◇ワークシートに記入し、話し合いに参加しようとしている。</p> <p>○一覧表を作り、視覚的にも捉えられるようにする。</p> <p>◇話し言葉と書き言葉の違いや気をけることについて自分なりに気づいたことや分かったことを発言したり、書いたりする。</p> <p>○書き言葉を使った伝達手段として、手紙の他に電子メールや掲示板、チャットなどもあることに触れる。</p>

情報の信頼性や信ぴょう性についての意識 — 4 年・総合的な学習の時間 —

1. 主題・単元名 「インターネットで調べよう —情報検索のしかたと情報の信ぴょう性—」

2. 題材・教材について

本授業では、「インターネットで調べよう」というテーマで、インターネットを用いた情報検索の仕方を身につけさせることをねらいとした。4年生ぐらいから、国語、社会、理科、総合などの学習において、調べ学習をすることが多くなっていく。インターネットで知りたいことを効率よく調べるためには、検索エンジンを用いることが大変便利であることを知らせ、上手に利用する力を身につけさせたい。同時に、ネット上の情報には不正確なものもあるので十分な吟味が必要であることもぜひ学ばせたいと考えた。

上記のねらいに迫るために以下のような工夫をした。

①実体験をさせること

- ・インターネットを使って情報検索を実際に体験させることにより検索の仕方を効率的に学ばせることができる。また、調べる情報がちがっているホームページを比べることを通して、インターネット上には正確でない情報があることがより印象付けられる。

②検索対象として「玉川上水」を取り上げたこと

- ・社会科で学習をし、見学にも行ったので子どもたちに親しみやすいと考えた。
- ・ホームページも多く情報が得られやすい。また、費用、日数、長さについての情報がちがっていたので、インターネット上には不確かな情報があることに気づくのには最適であると考えた。

③チームティーチングで授業を行うこと

- ・パソコンを用いた授業では、子どもたちのスキルの差から操作法の個別指導が必要であったり、機械にトラブルが起きたりしがちである。そこで、授業の効率化を図るために T・T を取り入れた。

④「スカイメニュー」の活用

- ・本時では T1 が中心となってスカイメニューを用いる。検索の仕方について教師がやり方を示しそれを子どものパソコンの画面に見せることができる。わかりやすく、効率のよい授業になるのではないかと考えた。

3. 本時の目標

① 教科や領域に関する目標

- ・インターネットを用いた、効率のよい情報の検索の仕方を知る。

② 情報モラル教育に関する目標

- ・インターネット上には多くの情報があるが、中には不確かな情報もあることに気付く。

4. 展開

学 習 活 動	教師の指導・支援（○留意点、◇評価）
<p>1. 本時の学習を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">インターネットを使った調べ方を学ぼう。（検索の仕方）</div> <p>*調べること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玉川上水をつくるのにかった費用 ・玉川上水をつくるのにかった日数 ・玉川上水の長さ <p>2. 検索の仕方について知り、調べる。</p> <p>3. 調べたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・費用…6000両、7500両、9000両 ・日数…7ヶ月、8ヶ月、9ヶ月 ・長さ…42km、43km <p>4. まとめる。</p> <p>「検索で気をつけることについてまとめよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検索するときには必要な言葉だけを入れる。 ・インターネット上には間違っ情報があるから気をつける。 <p>5. 授業感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを使って調べるときはいくつかの情報を比べないとけない。 ・インターネット上には間違っ情報がある。 	<p>○今までの調べ学習の方法を振り返らせる。本時ではインターネットを使った検索の例として「玉川上水（費用、日数、長さ）」について調べることを確認する。</p> <p>○スカイメニュープロを使って検索の仕方について一斉指導する。</p> <p>◇インターネットを用いた、情報の検索の仕方を理解できたか。（活動）</p> <p>○発表からホームページによって情報が違うことに気付かせる。</p> <p>○異なる情報が出てこなかった場合は教師が用意したホームページを見せ、ホームページによって情報が違うことに気付かせる。</p> <p>○なぜ異なる情報が載っていたのか考えさせる。気がつかなかった場合には教師が説明する。</p> <p>○インターネットには信ぴょう性が低いサイトが少なくないことをおさえる。</p> <p>○教科書や事典に載っていたり、多くの人が知っていたりする情報が正しいことを伝える。</p> <p>◇インターネット上には不確かな情報があることに気付いたか。（発言・授業感想）</p>

著作権などの尊重

－ 5 年・総合的な学習の時間－

1. 主題・単元名 「著作権について考えよう」

2. 題材・教材について

子どもたちは、国語や社会、総合的な学習の時間などの調べ学習で、日常的に本やインターネットから情報を得ている。また、レポート作成の際は日常的に本やホームページから引用して文章を書いているのが実態である。

5年生になってからの調べ学習では、調べた事実を調べ学習カードに記すよう指導している。その際、学習カードの書き方では

- ① わかったことをカード一枚に一つ書くこと
- ② 書かれていることの丸写しではなく、自分の言葉で要点をまとめること
- ③ 最後の欄に参考にした本やインターネットの作者名、アドレスを書くこと

などを指導している。

本やホームページにはそれらを作成した人がいることや著作権という言葉は知っていても、文章や絵を真似して自分の作品を作ることにはあまり頓着していない。まして写真や音楽にも著作権があることは考えたこともないというのが子どもたちの現状だろう。

今後ますます本やインターネットを使って学習する機会が増える5年生に、「著作権について考える」場を設定し、他の人が作ったものを使うときにはルールがあることを理解させたい。身の回りの学用品などにも著作権の表示があることを発見させる活動などを通して、著作権がより身近なことであると感じさせ、著作権法の意義や著作者を守るために私達にできることについて考えさせたい。

また、日頃お世話になっている花小金井図書館員の方をゲストティチャーとして教室に迎えて教えていただくことで、地域図書館との連携を強めることも意図した。

3. 目標（本時の目標）

① 教科や領域に関する目標

- ・ 資料を活用する時や情報を発信する時に他者の権利を損なうことなく、自分の課題を追究したり発信したりすることができる。

② 情報モラル教育に関する目標

- ・ 著作権について理解し、他者の作品を引用する際の約束ごとを知る。

4. 展開

学 習 活 動	教師の指導・支援（○留意点、◇評価）
<p>1 総合で学習中の学習カードの最後に記載されている参考資料の拡大コピーを見て何のためのものか考える。</p> <p>2 何のために書いたのか考えてワークシートに自分の考えをまとめる。</p>	<p>○出典がはっきりしているものを選ぶ。拡大コピーを用意する</p> <p>◇資料の出所をはっきりさせるために書いたことに気づいたか。 （著作権という言葉にはこだわらない）</p>
<p>著作権とはどんなものか考えよう</p>	
<p>3 著作権とはどんなものか話し合う。</p> <p>4 著作権について花小金井図書館員、埜村氏に教えていただく。</p> <p>*ゲストティチャーの話</p> <p>著作権について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・著作権法について ・何のためにあるか ・守らないと困ること ・写真・音楽・インターネットにもある ・新しい問題 <p>（本屋で携帯電話で写す、送る）</p> <p>5 実際の本の参考文献がどのように書いてあるか、班ごとに調べて発表する。</p> <p>6 ワークシートにわかったこと、感想を書く。</p>	<p>◇班での話し合いに積極的にかかわろうとする。</p> <p>◇自分の身の回りのこととして熱心に聞いている。</p> <p>◇どうしたら著作権を守ることができるか考えながら聞くことができる。</p> <p>○教室にさまざまなジャンルの本を準備しておく。</p> <p>◇調べることを通して、写真や図にも著作権があることを理解する。</p>

（参考）

著作権についての資料（小学生向き）

「イラストで学べる著作権 ① Q&Aでわかる著作権 学校編」

「イラストで学べる著作権 ② Q&Aでわかる著作権 生活編」

「イラストで学べる著作権 ③ 著作権なるほど情報館」

社団法人著作権情報センター著 汐文社

「情報の選び方・使い方⑤ ネットを守ろう 情報社会のルールとマナー」

中村司 監修 ポプラ社

社団法人著作権情報センター <http://www.cric.or.jp/> KIDS. CRICおじゃる丸の著作権案内

情報の信頼性や信ぴょう性についての意識 情報発信者の責任と相手への配慮

—5年・社会—

1. 主題・単元名 「くらしを支える情報」

2. 題材・教材について

本単元では、子どもの日常生活に身近な天気情報とテレビ放送の事例を取り上げ、情報の活用・伝達という視点から学習を展開する。

天気情報の事例では、天気に影響される仕事にかかわる人たちが情報を生かしている姿を、テレビ放送の事例では、放送局の人たちが伝えたい情報を選択し、正確で伝わりやすい情報を発信している姿をとらえさせていく。またこれらをうけて、子どもたちが実際にニュース番組を作る活動を行うことで、情報を伝えるときに大切なことをつかませていく。

このような仕事と情報とのかかわりや働く人々の工夫・努力を調べていく中で、子どもたちは情報が果たしている役割や、情報の受信者・発信者としてのあり方にも目を向け、考えていくことができる。と考える。

本時は、単元のまとめとして、これまでの学習をふまえ、情報の発信者として受信者としての心構えを考え、話し合う。実際に起こりうる場面を想定して考えることで「自分が」という当事者意識を大切にしながら指導にあたりたい。

3. 目標

(1)単元の目標

- ・日本の通信などの産業について具体的な事例を取り上げて調べ、情報を伝える仕事に携わる人々の工夫・努力や、国民生活との関わりをとらえることができる。
- ・身の回りにはさまざまな情報があり、それが身近な生活場面で役立てられていることに気づくとともに、情報を主体的に収集・選択して活用したり、発信したりすることの大切さについて考えることができる。
- ・通信などの産業に関する写真や図表などの資料を収集・選択し、情報の伝達や活用の様子をとらえるほか、伝えたい情報を効果的に発信することができる。

(2)本時の目標

①教科や領域に関する目標

- ・情報の発信者や受信者として気をつけなければならないことについて考え、情報をくらしに生かしていくために大切なこととらえることができるようにする。

②情報モラル教育に関する目標

- ・情報の発信者として、相手がいることを意識し、発信する情報に責任をもつことの大切さを知る。
- ・情報の受信者として、情報の正確さなど自分で判断して利用することの大切さを知る。

5. 展開

学 習 活 動	教師の指導・支援（○留意点、◇評価）
<p>1 これまでの学習を振り返る。</p> <p>2 情報集めゲームをしよう。 <新聞に6年生を送る会の記事をのせよう> 日時、6年生の人数、司会者の名前、どんな会か、連絡先、など</p>	<p>○多くの人に伝えられることなど、情報のよさについて確認する。</p> <p>○短時間で、教室の中で情報を探すゲームをする。その際、教室の中では調べきらない課題も含むことで、誤った情報が出やすい状況を作る。</p>
<p>情報を生かしていくための心得を考えよう。</p>	
<p>3 間違った情報からどんな問題が起こるか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を間違えて、来られない人がいるかもしれない。 ・プレゼントが足りなかったら困る。 ・名前を間違えたら司会者の人に悪い。 ・間違ったところに連絡が行ってしまう。 <p>4 情報の発信者・受信者として、正確さ以外にどんなことに気をつけたらいいか考える。</p>	<p>○間違った情報が入った記事を用意し、それをもとに考えさせる。</p> <p>◇相手がいることを意識した上で、不正確な情報から起こりうる問題について具体的に考えている。</p> <p>○ニュース番組作りで気をつけてきたことも想起させる。</p>
<p>情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確な情報を発信する。 ・見る人が見やすいように作る。 ・だれかに失礼にならないように作る。 ・個人情報のはのせない。 ・著作権のあるものは、許可をとってから。 ・使った資料の出所をはっきりさせる。 ・取材する人には、許可をとってから。 	<p>◇情報の発信者として、相手がいることを意識し、発信する情報に責任をもつことの大切さについて考えることができたか。</p> <p>◇情報の受信者として、情報の正確さなど自分で判断して利用することの大切さを考えることができたか。</p>
<p>情報の受信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい情報かどうか確かめる。 ・必要な情報を選ぶようにする。 ・情報に流されず自分なりの考えをもつ。 ・インターネットは大人と一緒に使う。 	<p>○インターネット情報の発信者・受信者の立場で、社会問題になっていることや、気をつけたいことについてふれる。</p> <p>◇発信者・受信者、両方の立場から、情報をくらしに生かしていくために大切なことをまとめることができたか。</p>
<p>5 学習の感想を書く。</p>	

情報の信頼性や信ぴょう性についての意識

—6年・家庭—

1. 主題・単元名 「めざそう 買い物名人」

2. 題材・教材について

消費者被害は、毎日のように新聞にのる。また、消費者被害が低年齢化の傾向にあるという。その背景には、消費生活の上で大人と子どもがボーダレスになっていること、子どもの生活が大人から見えにくくなっていることなどがあるという。（東京都消費生活総合センター：消費者教育読本「生きる力を育むカギ」）

この単元では、計画的な買い物のしかたを理解し、目的に合わせて適切な買い物ができるようすゝるとがねらいである。もうすぐ中学生になる時期にある6年生にとっては、店で買い物をするだけでなく、新聞や雑誌、インターネットなどを通しての通信販売もより身近なものになってくることが考えられる。また、行動範囲が広がりキャッチセールなどの危険にさらされることも考えられる。それらの販売方法の実際にふれながら、どんなことに気をつけて買い物をしなければならないのか、被害を未然に防ぐためには、どんな態度を取るべきなのかを学ばせたいと考える。

指導計画としては、3時間扱いとして、1時間目には自分の買い物を見直し、適切な買い物の仕方を学習させ、2時間目に本時の指導を考えた。3時間目では身の回りの物の使い方を見直し、有効な物の使い方を理解し、実践できることをねらいとする指導を考えた。

情報モラル教育という視点からいえば、情報を受け取るときに自分の安全を守るためにはどうすべきかを考えさせることにねらいがある。自分の個人情報やむやみに他人に教えないということはもちろんのこと、販売者や商品のあいまいな情報やその場の雰囲気や流されて買い物をしない、はっきり断ることの大切さを学ばせたいと思う。さらに被害にあった場合に、どうすればそれを回避できるかにも触れたいと考えている。

3. 目標

(1) 単元の目標

- ① 金銭の計画的な使い方を考え、適切に買い物ができるようにする。
- ② 金銭の使い方を自分の生活とのかかわりで考えることができる。
- ③ 身の回りの物の選び方や買い方を考え、購入することができる。

(2) 本時の目標

①教科や領域に関する目標

- ・いろいろな情報に振り回されずによく考えて買い物をしようとする態度を身につける。

②情報モラル教育に関する目標

- ・消費者被害の事例にインターネットを介した場合が多いことを知り、どうすれば未然に被害が防げるかを考える。

4. 展開

学 習 活 動	教師の指導・支援（○留意点、◇評価）
1 本時の学習を知る。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>身近な消費者被害の実態を知ろう</p> </div>	
<p>2 身近に起きた消費者被害(キャッチセールス)の具体例を知る。</p> <p>①被害が予想されると思う場所にアンダーラインを引く。</p> <p>②自分がこの場合の消費者だったらどうするか、どんな態度をとるか、なんと言うのかを考え、記入する。</p> <p>③どこに原因があったか話し合う。</p>	<p>○ 中学生が被害にあった典型的な例を上げ、身近な問題として考えることができるようにする。</p> <p>○ 安易な興味やよく考えない行動が被害に結びつきやすいことに目を向けさせる。</p> <p>◇ 自分の問題として考えて問題になる箇所を見つけることができる。</p> <p>◇ どうすべきであるか自分の問題として考えることができる。</p> <p>○ ちょっとした行動から被害が始まることに気づかせる。</p> <p>○ プライバシーを簡単に他人に教えないことなどを確認する。</p> <p>○ きちんと商品の情報を集めることやその場で判断しない、はっきり断るなどの態度が大切なことをおさえる。</p> <p>○ 被害を避けるための方法について話す。 ・未成年者契約の取消権 ・クーリングオフ</p>
<p>3 ネットショッピングの被害例を知る。</p> <p>①被害が予想されると思う場所にアンダーラインを引く。</p> <p>②この場合自分だっただったらどうするかを考え、記入する。</p> <p>③どこに原因があったか話し合う。</p>	<p>○ ネット上の見えない相手に対して何を注意すべきか考えさせる。</p> <p>◇ 自分のこととして問題になる対応をみつけることができる。</p> <p>○ 通信販売（特にネットショッピング）の便利さと怖さについて押さえる。</p> <p>○ インターネットで安全に買い物をするための方法について確認する。</p>
<p>4 本時のまとめをする。</p>	<p>・相手の連絡先、返品可否の確認</p> <p>・プリントアウトをしておくこと</p> <p>・オンラインマーク</p> <p>・東京都消費生活総合センターの存在等</p>

(参考資料)

- ①「自己責任を育てる 消費者教育」 山本 紀久子 日本書籍
- ② 消費者教育読本「生きる力を育むカギ」 東京都消費生活総合センター
- ③「こんなとき、あなたならどうする?—消費者教育コント集—」 全国消費生活相談員協会
- ④「宇宙船けいやく号の冒険 ～契約って何だろう～」 東京都消費生活総合センター
- ⑤ ビデオ「だまされないで!! 悪質商法 ～NOと言わなきゃだめだニャー～」
東京都消費生活総合センター

※これらの資料は、東京都消費生活総合センターの図書資料室で借りることができる。②は、東京都消費生活総合センターのホームページでも見ることができる。